

【科目名】聴覚心理学		【担当教員】高橋圭三						
【授業区分】 ST 専門分野（音声・言語学）	【授業コード】 5-31-1230-0-1	(メールアドレス) takahashik@nur.ac.jp (オフィスアワー) 月～水 16:20-18:00						
【開講時期】3 年次 後期	【選択必修】ST 必修							
【単位数】1 単位	【コマ数】8 コマ							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 言語聴覚士国家試験に出題される専門科目（音声・言語学）の講義を行います。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。								
【講義概要】 (目的) 音の心理的側面を学び、言語音や環境音など私たちがどのように音を感じているのかを理解する。 (方法) スライド中心の講義に加え、実際に「音」がどのように聴こえているのかを体験する機会を設ける。								
【一般教育目標(GIO)】 音には物理的側面と心理的側面があることを理解する。								
【行動目標(SBO)】 発せられる音の物理的側面とそれを聞き取る生体側の心理的な聴感覚との関係を学び、私たちが感じている音とは何かを理解していく。 音及び聴覚がもつ機能を多方面から考察でき、リハビリテーションに応用できる。								
【教科書・リザーブドブック】 吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』海文堂 (2,600 円+税)								
【参考書】 聴覚心理学概論／B.C.J.ムーア (著), 大串 健吾 (翻訳)／誠信書房 (1994/04)／¥4,725 音のなんでも小事典 (ブルーバックス新書) / 日本音響学会 (編集) / 講談社 (1996/12) / ¥1,155 聴覚と音声 / 三浦種敏 (監修) / 電子情報通信学会(1980/02) / ¥6,291								
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 定期試験および小テストを実施し、下記の評価基準により、100 点満点で 60 点以上を合格とする。								
【達成度評価】	試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20						100 点
評 取り込む力・知識	80	20						100

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)					
1	音の大きさの知覚 フェヒナーの法則/スティーブンスのべき法則/ウェーバーの法則/フォン/ゾーン	講義	予習・復習：教科書 P.97~108	60					
2	音の高さの知覚 mel/高さ(ピッチ)/オクターブ/場所ピッチ/時間ピッチ	講義	予習・復習：教科書 P.109~118	60					
3	音の強さ・大きさの種類と換算 dBSPL/dBHL/dBSL/Pa	講義	予習・復習：教科書 P.97~118	30					
4	音の強さ・大きさの種類と換算 等ラウドネス曲線と dBHL との関係	講義	予習・復習：教科書 P.97~118	30					
5	マスキング マスキング量と周波数特性/狭帯域雑音/広帯域雑音/臨界帯域/非同時マスキング	講義	予習・復習：教科書 P.119~124	60					
6	両耳聴 加算・融合/方向知覚/MLD (Masking Level Difference) /先行音効果/カクテルパーティー効果	講義	予習・復習：教科書 P.125~136	60					
7	音声知覚 聴覚フィルター/母音・子音の知覚/	講義	予習・復習：教科書 P.137~150	60					
8	音声知覚、まとめ	講義	予習・復習：教科書 P.151~169	60					

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。